
守りたい人 ...リュカの誓い...

グラキエース

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

守りたい人 …リュカの誓い…

【NZコード】

N6460D

【作者名】

グラキエース

【あらすじ】

あの時…僕達が余力を残していたら…『大乱闘スマッシュブラザーズX』の短編です。（ネスリュカ中心）

(前書き)

はじめに

一人用ゲーム「亜空の使者」のネタバレとグロ表現が含まれています！！

未クリア・未購入・グロが苦手な方はすぐにブラウザバックしてください！！

未クリア・未購入でもネスリュカ中心見たいんデス！の方、又はネタバレ？グロ表現？？そんなの平気だぜ！！という方はどうぞ！！

なお、苦情は一切受け付けません。自己責任で閲覧をお願いいたします。

あの人（先輩）を守りたい。

あの時の……荒廃した動物園で、先輩が僕をかばつて……

先輩を助け出す勇気があれば
..

セント...

守つくるせどりの力があれば…

創造神『マスター・ハンド』によつて創られた異世界『スマッシュワーランド』…その最果ての位置に異世界から召喚された英雄・住民達が住まう場所、『すま村』がある。商店街が幾つも並び文化が違う者達でも馴染んで、普通に暮らしていた。

住民達が住まうその奥には巨大なスタジアムがあつた。そこは異世界から召喚された英雄達が住まう場所、そして一般市民から彼らの乱闘を見物したり、どんな依頼でも絶対に引き受ける正義の砦…『スマッシュスタジアム』があつた。

スマブラ寮 一階 医務室…

スタジアムの裏に戦士達が休息用として寮が建てられている。その中…薬品の臭いと治療器具が設置されている狭い部屋の中、至る所にチュークが付いた少年が病室のベッドに眠っていた。

? 「先輩…」

もう一人の金髪の少年が、ベッドの下にあつた円形の椅子を出し、ずっと腰掛けながら眠っている少年に呴く。

? 「（あの時…僕たちがまだ余力を残していたら…）」

ガチャ…

すると、部屋のドアが開き白衣の服を羽織った男と女が入ってきて、眠っている少年に近づいてきた。

? 「リュカ… 3日間そこそこいるから食物を摂つていない、リンク達が心配しているだ。」

? 「さうよ… 何か食物を摂らないと体に悪いわよリュカ。」

側にいる少年… リュカは、俯いたまま眠っている少年を見る。

リュカ「… マリオさん、ペーチさん、僕は…」

マリオと言つた医者は、少年の上部についでいる点滴を付け替え、ペーチと言つた看護婦は、眠つている少年の体にお湯で絞り湯気が出でている布巾を、やさしく拭いていく。

マリオ「リュカ… お前の言いたい」とは分かる。此処に居る仲間も… みんな同じだ。」

ピーチ「苦しいのは貴方だけじゃないのよ？」

リュカ「分かっているよ……あの時僕達、僅かでも余力を持ついたら……」

リュカはやや声を荒げ、頭を両手で覆いながら、脳裏に映るあの出来事がフラッシュバックのように映しだされた。

時間は……あの時の出来事へ遡る。

?『ぐうおおおおお……』

…重空間 大迷宮最深部…

ガシャアーン！！

透き通るような蒼い人間の男の体を保ち背中から蝶のような翼が生えた、本当の元凶…『タブー』をマリオ、リュカ、リンクを始め、仲間達全員に全身打撲・切り傷・出血をしながらでも一人一人の一撃が一つになつて撃ち滅ぼす。

硝子が碎ける音をたてながら、タブーの体が崩壊していく。仲間達は力尽きたように次々へ倒れ、僕も全身に切り傷を負い、四つん這えの状態になる。

全員「！！」

バサツ！！

するとタブーの背からまた新しい蝶の翼が生え、肉体が碎け散りながらでも天空へと上昇し、奥にあるもつ一つの亜空間へと逃げようとする。

マリオ「畜生っ！ヤツを此処まで叩き潰したのに…逃がしてたまるかよ…！」

ソニック「シ… Shit!…」ひゅう時に体が…

スネーク「ぐつ…万事休すか…？」

カービィ「動いて！動いてよお…！！！」

マリオが…ソニックが…スネークが…カービィが周りの仲間達が動けない体に後悔と無念が渦回っていたとき…

ドンッ！！

僕のすぐ近い所から衝撃が走りるのを感じ、僕の体は衝撃で少し吹き飛び、うつぶせの状態のまま顔を上げると…

リュカ「ネス先輩！！」

ネスは仲間達と同じように全身がボロボロながらでも、白い発光に包まれながら高速に飛び、逃げるタブーを追いかけていく。

ネス「ここまでみんなが頑張つて追い詰めたんだ！！もう逃がすわけにはいかない！！！」

タブー『ぐぬううー……』…小僧お！…！…！』

タブーは逃走を中断しネスに振り向いて、一人が高速に空中体当たりをかけた時、体が小さいネスにタブーの体当たりは当然当たりず、PSIを宿したネスの右腕がタブーの右翼を切り落とした。

キィィィィン…

タブー『ぐわああああああああー！！！』

タブーは悲痛をあげながらきりもみ落越し、階下にいた仲間達が歓喜の声をあげた。

ピカチュウ「ピカア……（やつたあ……）」

ファルコン「おっしゃあー！」

マルス「流石ネス君ー！」

デデデ「うっしーそのままどじめを刺すゾイーー！」

ピカチュウが、ファルコンが、マルスが、デデデが、仲間達が歓喜
があがつている中、僕は大きく目を開いて落下しているタブーに向
けてもう一度空中特攻をしかけるネス先輩を見ると…

リュカ「マ…マリオさんー…」

マリオ「どうしたんだリュカ？」

リュカ「せ……先輩の……う……腕が！！」

マリオ「腕？……！」

マリオは田を凝らして特攻をしかけるネスの体を見ると

翼を切り落とす強い衝撃のせいか、ネスの右腕が無くなっていた。

僕は口となくなつた右腕から血を吐き出しながらでも飛び続けるネス先輩に向けて叫び、落下していくタブーの身体をネス自身が光の弾丸となつて突き破つた。

リュカ「先輩……！」

ネス「うおおおおおおお……！」

ドオオオン...

突き破られた所から光が漏れ出た瞬間爆発し、今度こそタブーは絶命した。

ネス以外の仲間達「ネス！！！！！」

ネスの体を覆つていた白い発光が消えて、全身に血が大量に吹き出ながら、もげた右腕も地上がない永遠の闇の方向へ落下していく。

リュカ「せ……先輩いいいい！！！！！」

僕が叫んだ時、仲間の一人であるメタナイト卿が背中からボロボロの翼を出してややよろめきながら全速力で、ネスの元へと向かっていった。

…スマブラ寮 一階 医務室

リュカ「…もし僕達が余力を残していたら…先輩はこんな姿にならなかつたはずだよ！…」

マリオ「リュカ…」

リュカは思つていたことを全て言葉として吐き、顔はクシャクシャに潰れて涙を流した。

何とかネスを救助できたのだが、ネスの右腕だけが階下にあつた亞空間の中に入つてしまい、何処かへと飛ばされてしまった。仲間達は傷を癒した後、チームを分けて世界を飛び回り（当然、マスターも参加）、今現在までネスの右腕を捜索している最中である。

リュカ「う…うう。」

マリオとピーチはリュカの表情を見てやや悲哀し、眠っている少年…ネスの無くなつた右腕部分を包帯で巻かれてゐるのを見て、マリオは眉毛を上に上げ右手を顎に持つてきて真剣に今後のことを考えた。

マリオ「（ネスの右腕は何処にいつたんだ？…それはエインシャイント卿＝ロボットやフォックス達に任せるとして…もし右腕が見つからなかつたの場合は……くつ！何でこんなにつらい現実をネスやリュカ達幼い仲間…否俺達全員に言わなくちゃいけないんだ！？）

「

ピーチ「マリオ…」

戸惑つピーチが真剣な表情で囁らせていくマリオに向かって呟いた時、騒がしく医務室の扉が開かれる。

バンッ！

? 「おいやブ医者！－！聞いてくれ！－！」

マリオ「ヤブ言つな！（怒）腹黒策士鬼畜王子！－！－！」

空色の私服姿で現われたマルスに向かつてマリオはやや激怒し、マルスはそれにカチンときたのかやや半ギレの表情を出した後、真剣な表情に戻つてマリオに話す。

マルス「んな！？僕はそこまで酷くないぞヤブ医者！－！…それよりもネス君の右腕が見つかったんだ！－！」

マリオ「な…何だつて！？ど…何処に落ちていたんだ！？」

マリオは無駄なオーバーリアクションを取つて驚愕の声をあげた後、

マルスはそのまま真剣な表情で話しを続ける。

マルス「氷山」「アイシクルマウンテン」の頂上に冷凍状態のまま落ちていたんだ。今フォックス達がネス君の冷凍状態の右腕回収してこっちに向かって来ている。」

「運が良かつた、というべきだろ？　マリオはマルスの報告を聞いて全身の力が抜けたように額に手を当てて安堵する。

マリオ「ふう……めちゃ幸いだな。（汗）もし荒野か森だったら例え見つけたとしても、切り口の細胞と神経が壊死して右腕を繋げれないことも頭に入っていたから……よかつたあ。」

マルス「既に伝えてきます！　それと……なかなか解凍できなくて困っているそつだよ？」

マリオ「……何とかなるだろ（汗）そんじゃ俺は執刀する準備でもし

てくるか！姫ー。」

マリオはピーチに呼びかけて、ピーチは分かったように頷きまだ暗い顔をしているリュカに語りかける。

ピーチ「リュカ！もう大丈夫よ。そんなに暗い顔をしないで穏やかに笑つて？？私はマリオの手伝いしてくるからそこにいてね。」

ピーチはそういった後、医務室から出て行くマリオを追つて、マルスは心配している仲間達に報告するために、走り去つていった。

リュカ「先輩…」

医務室に居るのはリュカとネスのみ、リュカは先ほどの知らせを聞いていなかつたように、涙を流し頭をうつぶせたまま、俯く姿勢になる。すると…

ネス「…What are you crying about?
(何で泣いているんだ?)」

リュカ「…Senior!?(せ…先輩!?)」

異国語が突然響き、リュカは顔を上げてネスを見ると、体を半分起き上がらせ、涙を流しているリュカの頬に、残つていたネスの左手が触れて優しい表情で拭き取る。

ネス「Do not have such a dark face though everyone is pleased. (皆が喜んでいるのに、そんな暗い顔をするなよ。)」

リュカ「Because... I... .(だつて...僕は...)」

二人の出身国は同じなので異国語を話すことが出来る。リュカは優しく語り掛けるネスを聞いても俯いたまま。ネスはリュカの顎を手にとつて自分の方向へ向かわせる。

ネス「Lucas... Please put out the smile. I with a smile... No, do everyone's motive power it? (リュカ...笑顔をしてくれよ。笑顔は僕の...いや、皆の動力源なんだぜ?)」

リュカ「When I remain power that b

e g i n s t o h e l p t h e s e n i o r a t t h
a t t i m e : I : : I ! ! (僕はあの時、先輩を助け
出す力が残つていたら…僕は…僕は…!)」

ネスはリュカの顔を自分の胸元まで寄せて、包むように金髪の髪を
撫でながら言う。

ネス「…becoming it…Lucas that
thinks backward! Such anything
g doesn't advance…Now is no
w at that time at that time. I
t doesn't go positively. (過去を振り
返るなリュカ! そんなんじゃ何も進歩しない。…あの時はあの時、
今は今! 前向きにいかないとね!)」

リュカ「T : To positive reeling… (ま
…前向きに….)」

リュカはネスの前向きの言葉と暖かい心音を聞いた時、流れ出でてい

た涙が止んだ。

ネス「Haha! becoming it. Lucas that finished finally crying! It shall not be an unexpected cry baby though heard from Red.（ハハ！やつと泣き止んだなリュカ。レッドから聞いたんだけど、とんでもない泣き虫なんだな。）」

レッド…ポケモントレーナーの名前のことである。どうやらネスはレッドにリュカのことを聞いていたらしく…リュカはやや恥ずかしがりながら笑っているネスを見て、少し頬を膨らせながら言い返す。

リュカ「Cry baby remark! It : Thought is a thing of my worry for a long time.（泣き虫言わないで！それ…ずっと僕が気についていた物なんだけど…！）」

ネス「… Return?（ほらつ…戻つただろ？）」

リュカ「あ…」

ネスにからかわれながら、リュカははつとして少しだけ仲間達がいつも使う日本語に戻り、暗い表情が消えていたことに気づいた。

ネス「When you probably had courage to have begun to help me eat the risk of one's life not to be able to combat, to fight with "Wario" or the fellow who says, and to escape from the filling gap in addition: Do they though it heard from Red? (たしかお前は、僕を戦闘不能にした「ワリオ」とか言つ奴と戦つて、更にみちずれから逃れるために命がけで助け出した勇気があつたと…レッドから聞いたけど?)」

リュカは更にあの時の出来事を振り返り、身に受けた戦記を思い出す。

そつか…僕は無我夢中にやつたわけじゃない。最初は勇気が無かつたけれど、僕は戦つていくうちに立ち向かう勇気が生まれたんだ…先輩とみんなと同じように命がけで戦ってきたんだ！

リュカは拳を握り締めて、あの時と同じような表情に戻る。ネスは会心したかのように更にリュカの髪を摩つてゆっくりと頭部を枕に乗せるように倒れこんだ。

リュカ「I have been rega i ned thank s to the senior : I : What sho uld be done now is not done an d it does n't disre g ard it . (先輩のお陰で僕自身をとりもどしたよ…僕は…今するべきことをしなくちゃいけないんだ。)」

リュカは真剣な表情ながら穏やかな瞳でベッドに倒れこむネスを見てこれからするべきことを言った。

リュカ「I defend the senior. At the same position as not the rear side but the senior!! (僕が先輩を守るんだ。後方ではなく、先輩と同じ位置で!!)」

ネス「I think that everyone also says so. Especially, Marus kir bys and does.. Haha!! (みんなもそう思つと想つよ。特にマルスやらカービィやら...ハハ!)」

リュカ「Then, it is a story that I only have to strengthen!（なら、僕が強くなつておけば良い話だよ！）」

ネス「Is the enjoyment. It is Lucas... counting on.（そいつは楽しみだ。頼りにしているぜ...リュカ。）」

ネスは残つてゐる左手を伸ばし、リュカは右手でネスの手を掴んで彼らなりの男の約束（男の友情）をする。

リュカ「Only the senior is to take care not my pulling out!（先輩こそ、僕に抜かれないように気をつけてくださいね！）」

ネス「Foooo! . What do you say? Of division your pulling out me it is...（バーカ。何を言つか? 僕がお前に抜かれるわけ

無いだろ？）」

挑戦的な笑みを浮かべているリュカの顔を見たネスは、やや皮肉に微笑し言い返す。

リュカ「Let's fight with me by the one to one when curving... It absolutely defeats it to the senior!!（完治したら僕と一対一で戦いましょうよ!! 絶対先輩に勝つてやる!!）」

ネス「It does and all! my tasting by the body of you pandemonium that has fought up to now!!（やつてみな！俺が今まで戦ってきた修羅場をお前の体で味わつてやるぜ!!）」

リュカ「Here is also the same as i

t ! Please guide it while fight
ing ! (それは こちらも 同じです ! 戦いながら 指導をお願いし
ます ! !)

ネス「OK...Determine it? (OK...覚悟しておけよ
?)」

好戦的な笑顔を出しながら一人だけの会話を語り合い、何時しかリ
ュカの心に溜め込んでいた陰が砂がこぼれ落ちていくように消えて
いった。

僕が絶対に守るんだ…

先輩を守るのは僕の役目…

出会った時以来… 尊敬しているのだから。

END

（後書き）

ネスさん男前・リュカ弱きすぎでござんなさい。（作者の主力キャラなので）

携帯閲覧の方はネスとリュカが話す英文が雑に見えてしまってごめんなさい。（最後はグダグダになってしましましたが…（汗））

それとここまで閲覧してくれた皆様…有難うございました…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6460d/>

守りたい人…リュカの誓い…

2010年10月8日22時12分発行